

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成31年 2月16日
(75号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学講座
第79講

「学歴よりも本氣歴」

本南一志先生



■本来事故は起きないもの

学歴の立派なことよりも、いろんなかたちで経験を積んでいくことの大切さを私は掃除から学ぶことができました。ちよつと片付けたり、机を拭いたりすることで気持ちが落ち着く体験もありでしょう。整理整頓することで、心も同じように動き始める。そういう体験が、いろんな面で自分を鍛えるきっかけとなります。

私の仕事は運送業ですので、ドライバーたちには安全運転についての話をしております。当初、懸命に売上を追いかけていた頃の私は「安全に走れ。その代わりしっかりと走ったら給料も上げてやる」ということしか言えませんでした。「金がたくさん払えたら、社員の家族も幸せになる」という考えしか持たず会社経営をしていました。その結果、大事故やトラブルが起きてくる。それでまたあちこちに当り散らすため、社員は社長の顔色をみて仕事をするようになりました。

実は事故とは、本来起きないものであることに気づきました。水槽の中にたくさんの魚を入れたとしても、正面衝突する魚はいません。大自然の仕組みは事故を起こさないように作られているのです。事故には必ず原因があります。その原因をどう失くしていくかの答は、実践によって作られていきます。

■人間は災いを福に転じる

宇宙は循環しています。『易経』の中に「天行健なり、君子はもつて自ら彊めて息まず」という言葉があります。宇宙の営みは必ず春が来て、夏秋冬が来る。地球が生まれてから、この季節の巡りが変わつたことはない。東から昇る陽を、かつての自分は西から上げてみせる、という思いで会社経営をやつて

きたのではない。懸命に努力すれば道は開ける。しかし、その方向が間違つておれば、幾ら努力してもただ一方通行で答は返ってきません。気づきは与えられないのです。昨年も自然災害の多い年でしたが、その災いを福に変えていけるのは人間だけではない。災いを福に転じるためには何が必要かは人間だけに与えられた課題なのでしょう。

毎日同じように掃除をし、毎日同じようにドライバーは運転をします。ずっとその繰り返しの中で、一見同じように見えてはいるが、いつか深く根っこが降りてゆく。なにか「やるぞ」と思つてもやれない条件が生じることがあります。それを乗り越えるために何が必要か。根っこを伸ばす方向に自分が進んでいるかどうか、方向性を見極めることが必要なのです。自分との向き合い方を定めたとき、根は自然と木は育つのです。

物事には順番があります。執行草舟先生によると「幸せになりたければ不幸になれ」。自分が幸せになりたければ、まずは人のお役に立つこと、そして人から「ありがとう」の言葉をかけていただくことで自分が幸せになれる。掃除をしない人からすると、自分の家でもないところを掃除していることは馬鹿にされることもあります。その姿は「不幸」と見えるかもしれませんが。人は幸福だから朗らかなのではなく、朗らかにしているからこそ幸福になるべく周りの事情が好転してゆくのです。

■根っこが伸びる生き方とは

今後AIが人間の知能を追い越す時代が来ると言われています。人間しかできないこととはなにか。たとえ数字には表れてこなくとも、意味のある生き方をしたと思います。今ではトラックもオートマチックです。車にはその運転の仕方により、点数が出るようになっていく。わが社ではそれをほりだしているのですが、毎回満点のドライバーがいます。彼は元暴走族で、かつてろくでもない社員でした。

ところがその彼が「風を起こさない運転」を目標に走り始めました。彼が懸命に取り組んだその背中を追いかけて、後輩も同様に励んでいます。その後輩が先輩である彼にどうしたら百点が取れるかを尋ねると「機械に合わせたら満点取るのは簡単や。だけど何が大事かを考えながら運転せなあかん」との返事でした。毎月百点の記録を残していくのは並大抵の努力ではないでしょう。人間としてどういうふう

に根を伸ばすかは、その意味を自分自身がどう捉えていくかに繋がっています。仕事は単に金儲けのためではない、仕事を通じて自分の人生を実りあるものに変えていけるかどうか。凡事徹底の本当の意味は、そのものの持てる力を充分に引き出すこと。当たり前のことを当たり前にすることの難しさ、そしてその奥にある力を充分に引き出すためには、実力がないとそうはできない。小さなことでも意味を持ちながら生きていくことが自分を作るきっかけになると思います。本質とは感化で伝わるもの。変化は枝葉の部分、様々な技術は変化していきますが、その本質は感じる心がないと伝わりません。自分の実力をつけていくために何が課題か。目標があり、目標とする人と自分との隔たりがまた目標となる。

掃除のあと気持ち良いのはなぜなのか？ 沖繩の助産婦さんからこんな話を聴きました。実は人間は生まれたときからまわりをきれいにすることをやっている。母親のお腹に赤ちゃんが宿っている間、自分の排泄物は自分できれいにしているとの話でした。命として自分が宿った段階で、羊水が汚れないようきれいにすることが喜びとなるように、人間はつくられている。だからちよつと整理整頓するだけで人は気持ち良くなる、とのことでした。どんな生き方をしていくか。命が喜ぶ方向に向かって努力を重ねていくこと。そうするなかで根っこが伸びてゆくのではないでしょう。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》

□ 講師 木南一志先生

「学歴よりも本気歴」

【Aグループ】

- ① 根を伸ばす
- ② 災いを福にするのは人間だけ
- ③ すぐに役立つことはすぐに役立たなくなる

【Bグループ】

- ① あなたのこれからが、あなたのいままでを決める
- ② 同じことを繰り返す、進化する方向性が大切
- ③ そのものの持っている力を十分に出す

【Cグループ】

- ① 法則ルールを作らない

背中をみて感化していくのです

- ② 堅いものが柔らかいものを切るのです

継続の力が大切なのです

- ③ 根を伸ばす生き方が大切なのです

【Dグループ】

- ① 重荷を背負うからこそ

- ② 深化

- ③ 流水の清濁は、その源に

あり

【Eグループ】

- ① 根を張る生き方
- ② 有意注意が大事
- ③ 流水の清濁は、その源に

あり



《塾生講話》

嶋田 泉塾生

「節目の度に振り返ること」



福本浩之世話人塾生

「自然に近い状態で生きましょう」



小南昭雄塾生

「鍵山相談役に教えて頂いたこと」



新春の集い

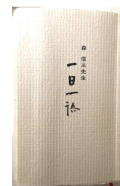


《課外講座》国民の師父 森 信三先生に学ぶ

◇ 進行 西村俊幸世話人

◇ 指導 田中檀子塾生

◇ テキスト 森信三先生『一日一語』より



各月十二日の至極の一言を参加者で輪読。

一月

悟ったと思う瞬間、即刻迷いに墮す。

自分は常に迷い通しの身と知る時、そのまま悟りに与るなり。

二月

物事は一おう八〇点級の出来映えでよいから、絶対に期限に遅れないこと。

三月

ハガキを最上の武器として活用しうる人間に

かくしてハガキ活用の達人たるべし。

四月

同僚より五分前に出勤する心がまえ

それが十年も積み重ねられたとき、いつしか大きなひらきとなる。

五月

朝起きてから夜寝るまで、自分の仕事と人々への奉仕が無上のたのしみで、それ以外別に娯楽の必要を感じないというのが、われわれ日本のまともな庶民の生き方ではあるまいか。

六月

金銭は自分の欲望のためには、出来るだけ使わぬように。そしてたとえわずかでもよいから、人のために捧げること。そこにこの世の真の浄福境が開けてくる。

七月

肉体的な距離が近すぎると、真の偉大さはわかりにくい。それゆえその人の真の偉大さがわかるには、

ある程度の距離と期間を置いて接するがよい。

八月

女が身につけるべき四つの大事なこと

(一)子どものしつけ。(二)家計のしまり。(三)料理。て四最期が清掃と整頓

九月

自分より遙かに下位の者にも、敬意を失わざるにいたって、初めて人間も一人前となる。

十月

夫婦の内人間としてエライほうが、相手をコトバによつて直そうとしないで、相手の不完全さをそのまま黙って背負ってゆく。夫婦関係というものは、結局どちらかが、こうした心の態度を確立するほかないようです。

十一月

この世では、総じてキレイごとで金を儲けることはむづかしい。これ現実界における庶民的真理の一つといつてよい。

十二月

人は内に凜乎たるものがあつてこそ、はじめてよく「清貧」を貫きうるのであって、このにんしきこそがこんぼんである。



《大悟徹底》

寺田一清先生寄稿録

森 信三先生の「ご講義ノートより」



大阪浪速の地に新たな読書会が誕生しましたことは、ひそかなる喜びです。このメンバーの一人より伺いますところによれば、母上様が神戸海星女子

大学時代に、森 信三先生のご講義を拝聴せられたようで、いまその「講義ノート」四冊を大事に保管されおられるとのこと。

そこで是非拝見したいとお願いし、すべて拝読させていただき、その内より特に心ひかれた言葉を抄録いたしました。

以下にその一部を列記し、みなさまのご参考にしていただければと思います。

★ 男の強さは冒険であり、

女の強さは堪え忍ぶことである。

★ 男は事業で、

女は家族関係できたえられる。

★ 男は事業と国家に、

女は夫と子どもにおのれを捧げる

★ 母親は、最低三つから五つのお話をそらでできなければならぬ。

★ 人間関係の最高なるものは、友情である。

★ 友情を暖めて行くには疎遠にならぬよう努力を要す。友情を保つ秘訣はハガキである。

★ 友情を暖めて行くには疎遠にならぬよう努力を要す。友情を保つ秘訣はハガキである。

《お薦め書籍》

『読書する人だけがたどり着ける場所』

齋藤 孝 著

出版 岩波クリエティブ
頒価 八六四円(税込み)
ISBN 13 978-4-7973-9849-9

「本」を読むからこそ、思考も人間力も深まる—
「ネットで情報をとるから本はいらない」という風潮が広がっていますが、それは本当でしょうか？ 私たちは日々ネットの情報に触れますが、キーワードだけを拾い、まったく深くならない、ということも多いのではないのでしょうか？ 読書だからこそ、「著者の思考力」「幅広い知識」「人生の機微を感じとる力」が身につきます。ネットの時代にあらためて聞きたい「読書の効能」と「本の読み方」を紹介しています。

《先哲に学ぶ生き方》

森信三 先生

「能力を出し切る」

この人生というものは、二度と繰り返すことのできないものである。だからわれわれは、自分をもって生まれた能力を、ぎりぎりのところまで発揮した上で棺桶に入るといふくらいの意気込みがなくてはいけない。

森信三

「運命を創る一〇〇の金言」より

《人間学塾・中之島》

■ 宿泊研修

*日時 平成31年3月9～10日

*場所 京都「仁和寺」・御室会館

京都市右京区御室大内33

*第一講 講師 中桐万里子先生

「尊徳翁に学ぶひとつの秘訣」

第二講 講師 我那覇真子先生

「沖繩から日本の未来が見える」

DVD放映 寺田一清先生講話

「先師に導かれて」

読書会 テキスト「たねまき文庫」

〇 〇 〇

*OP企画(別途自由参加)

日本のヘレン・ケラー

大石順教尼を訪ねて

「可笑庵」

ご紹介くださいませ!!

●「聴講」から「入塾」へ

お知り合いの方々を、お誘いください。

聴講費 四、〇〇〇円(小冊子謹呈)

聴講後に入塾いただいた場合、聴講費は塾費より減額いたします。

【新期入塾・継続生ご紹介】 2月より】

阿路川 治子さん

〒535-0031 大阪市旭区

西川 由美子さん

〒591-8023 大阪府堺市

《淀川掃除に学ぶ会》

短信 志村隆夫

平成31年2月3日(日曜) AM9時～10時30分昨夜の雨もあがり、薄日のさす掃除日和に恵まれました。年に一度の学生さん達との合同で四八〇名の方が集まりました。

いつものメンバーは吉寿屋の会長さん始め約三五名が参加し、ゴミ袋四五個を葦の間から集めました。

掃除の後には5個の段ボール箱に入ったお菓子を吉寿屋の会長さんに提供して頂き、ジャンケン大会で皆へ分けました。

また、松山さん、東さんよりおにぎり・コーヒー・熱いお茶などをふるまって頂きました。

4月は会場の都合で休止となります

